

砂場の環境衛生検査

近年のペットブームで身の回りに増えた犬や猫が、公園・保育所・幼稚園・学校などの砂場に入り、糞便などで汚染することが問題になっています。

ペットの糞便の中にある細菌や寄生虫卵が、砂場で遊ぶ子供たちの手指を介して感染する危険性があり、なかでも犬蛔虫卵・猫蛔虫卵（トキシカラ属線虫卵）は、臓器障害や眼内障害を引き起こすことから、社会的に問題視されています。

定期的に砂場の砂を検査することは、砂場で遊ぶ抵抗力の弱い年齢の子供たちを「感染」から守るために有効です。

砂場の衛生状態を評価するために、砂場の砂を検査材料として、人に感染する恐れのある寄生虫や病原性大腸菌の検査を行います。この検査の結果は、砂場の消毒、殺菌する時期の目安となります。

推奨検査項目

検査項目	検査の目的
病原性大腸菌（50種）・寄生虫卵	各施設（幼稚園、保育所、学校、自治体など）内砂における環境衛生状況把握

